

HopStepJump

6

授業づくり②

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

～ 道徳の授業づくり・道徳の時間について ～

第5回初任者研修は、豊能町立東ときわ台小学校の龍神美和先生をお迎えし、道徳の授業づくりを柱に演習を交えご講義いただきました。講義の前半では、道徳教育の要である「特別の教科 道徳」の意味や読み物教材の分析の方法について、後半には前半で学んだことを基に、教材分析を中心に演習を行いました。講義の中では、数多くの実践事例、また道徳の授業に限らず、他の教科の授業や学級づくりを進めていく上で大切にされていることなど、龍神先生の思いや願いも含めて話してくださいました。

～振り返りシートより～

「特別の教科 道徳」は道徳教育の要だと聞き、まさにそうだなと納得しました。日々の道徳教育もねらいをもって力を入れたいと思いました。授業づくりをする際は、その単元の中心場面から考えることで、最初から最後までぶれずに進めることができると学びました。

道徳の授業を行う際に、まずは自分自身で「なぜそのように行動するのが良いのか」をしっかりと考えておくことが大切だと学び、自分も一つ一つの道徳的価値について深く考え、たくさんの幅を持たせた上で子どもたちと授業をしていきたいと思いました。

今まで道徳の授業をどのように組み立てていったらいいのかということが分からずにいましたが、A・B・C・Dという場面に分けてみたらすごく発問が考えやすくなりました。教材が持つ価値をきちんと引き出して、子どもと一緒に考えていく。それが教材研究なんだと分かったので、2学期からの授業は自分のクラスの子どものイメージしながら、子どもに合った発問を考えていきます。

今までの道徳の授業では気持ちを聞く発問が多くなり、子どもが飽きてくる、手が挙がらなくなると困った状況になることが多くありました。今日の講義を聞いて、具体的な行動を聞くことや、子どもたちに演じてもらうなど、すぐにでも試してみたくくなりました。

役割演技を取り入れるという話が特に印象に残りました。演技者も重要ですが、見る側も本当に大切だと思いました。龍神先生がされていたように、演技を見て気づいたこと、良かったところ、なぜそうしたのか等も見ていた子どもに問うことで授業を深めることができると知りました。教師が教え込むのではなく、自分の意見を持ち、子どもたち同士で交流し、意見を深めていく授業を目指したいと思いました。

「道徳の授業は読解の授業ではない」「正直・節度・感謝などの言葉の意味を学ばせる授業ではない」という先生のお話を聞いてはっとしました。子ども自身が役割演技等を通して自分の中で考えることが「そうか！」「なるほど！」というような学びにつながるようになりました。

本講義を受けて、道徳の時間で何に価値を見出すかを考えることができました。「思いやり」「正直」なことが大切なのは子どもたちはすでに分かっていること。だから、「なぜそれが大切なのか？」をどんどん追及していくことで価値を見出さなければならないと感じました。子どもの意見を取り入れながら追求するために、教師が「なぜ」にあたる部分を研究しなければならないと思いました。「なぜ」を追求することで、教材の道徳的価値が高まるのだと思いました。

具体的な授業実践や教材研究のポイントを教えていただくことができ、大変勉強になりました。子どもたちを飽きさせずに授業に参加させる工夫や目的のある話し合い活動をどんどん取り入れていきたいと思います。また、子どもの様々な意見をつなげられるよう、日ごろからいろいろな人と関わって、アンテナを広げていきたいなとも感じました。

「道徳は子どもにじわじわとしみこませていくもの」という先生のお話を聞いて、子どもたちの心の成長を促していくためには授業はもちろん、日々の関わりが大切になってくるということを改めて感じました。

道徳の授業をしたからといってすぐに劇的な変化が起こるわけではありません。本当に少しずつ変化していくものです。だからこそ日々の道徳教育、その要としての週1時間の道徳の授業がとても大切になってきます。

また、初任者研では、現役の教員や教職経験のある方を講師としてお招きすることもあります。これまで歩んでこられた先輩方のお話は、講義の内容だけでなく、「先生」としてより成長させ視野を広げる多くの学びがあります。